

日本共産党えんど久子県議 市議らとともに県に予算要望

教員の人材確保をすすめるために

猿渡（えんど） 久子県議ら日本共産党は、10月27日、大分県の来年度予算について233項目を要望し話し合いました。堤栄三県議（大分市選出）や市議・町議、団体のみなさんとともに10時から16時まで、重点項目について協議しました。

教員が31人も欠員のまま

教員の欠員が今年4月に26人、病休代替が見つからないなどで9月には31人もあります。

「学校現場が大変なので人材確保できない。短時間勤務での先生を確保したり正規教員をプールしたりできないか」とえんど県議ら。「中津から労働条件が良い福岡県内に通う人が多い。大分県が国を上回る魅力を打ち出してほしい」と中津市議。これに対し「多めに採用しているが追いつかない」と回答。

一歩前進さらにもう一歩

昨年のこの場での要望が実り、1学期に産休に入る教員の代替教員を今年度より4月に前倒しで配置しています。その人数は23人。「2学期3学期も同じようにできないか」とえんど県議。「できるだけ早めに代替教員を措置したい」との回答でした。

えんど県議は「3学期の終業式の2、3日前に担任が産休に入り、1年間お世話になった先生から通知表を受けとることができないと、以前相談があった」と、前倒しで配置する必要性を訴えました。

カウンセラーを正規職員に

決算委員会でも予算要望でも、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの正規化を要望。スクールカウンセラーは、公認心理士、臨床心理士、大学教授などの資格を持ちます。大学院を出て試験に合格して得られる心理士の資格ですが、非正規雇用です。

えんど県議や美馬きょうこ別府市議は「いじめや不登校などの対応に役割を發揮し、必要性が増している。せめて中心になる人は正規職員に」と求めました。



挨拶する林田澄孝日本共産党大分県委員長。その右、えんど久子・つつみ栄三両県議。

日本共産党 県政ニュース

発行 日本共産党大分県議団
大分県議会議員 えんど久子

TEL・Fax 097-537-2344

No.47

2020.10.28.